

絵本の原画 pick up

同じ考えが頭の中をまわって、子どもが自分の世界に閉じこもる、子どもの世界で完結するイメージをぐるぐるで表現しました。「(お母さんが元気がないのは) どうしちゃったのかな?」「どうしたらいいのかな?」「もしかしてボクのことキライになったのかな?」... まわりの心配な物事を自分に結びつけて考えやすい子どもの気持ちも描きました。



ボクのせいかも
—お母さんがうつ病になったの—
P4-5

絵本を描くときには、子どもの年代にタイプスリップして、子どもからみた世界をイメージします。この絵は、主人公ホロが、お母さんの病状にまきこまれている描写。ホロからみた「よくわからない怖い世界観」を表現しました。ただの暗闇ではなくて、病気の体験を疑似体験しているような世界。この絵のイメージは、ぱっと浮かんできました。



お母さんどうしちゃったの...
—統合失調症になったの・前編—
P6-7

主人公リクの最大のピンチのシーンです。(お母さんに叩かれた) 顔のアザのことを担任の先生に聞かれたときの表情。黒の輪郭線のない絵。「... やばい! どうしよう。今聞かれても困るし、話す準備してなかったし、なんて言ったらいいかわからない。お母さんが怒られるかもしれない。せっかくばれないようにやってきたのに。どうやって切り抜けたら...」



ボクの冒険のはじまり
—家のケンカはかなしいけれど...
P14-15

絵本のキャラクターは、自分の気持ちを表現しない子どもが多いです。言えない子に気づいて、近づけたら...という想いもあって。そんな中で、主人公ハルの自分でも抑えこめない気持ちがあふれ出るシーンです。横にいる相棒のココ(ネコ)が「がんばれー」と応援しています。子どもたちへ、気持ちを出してもいいよ、というメッセージをこめて。



ボクのことわすれちゃったの?
—お父さんはアルコール依存症—
P24-25

絵本の中で特にこだわっているのは表情と背景の色です。お母さんからの説明を聞いて『お父さんが約束を守れないのは、ボクのことを嫌いになったんじゃないんだ(アルコール依存症という病気のせいなんだ)』と安心するシーンです。いろいろな回復のまる。境界のないまる。それは家族の回復だったり。ハルが元気な背景に守られていくイメージです。



ボクのことわすれちゃったの?
—お父さんはアルコール依存症—
P38-39

学校に行くのがしんどくなったミクのお話。絵本のテーマカラーのグレーは、ミクの時間のイメージです。ボタンと閉じたココロが、ちょっとだけ動き出す一枚。ちょうどよい「ちょっとだけの変化」になるように、何度も描き直しました。ほのかな花と風になりました。



わたしのココロはわたしのもの
—不登校って言わないで
P34-35

絵のまわりの余白に注目

《家族のこころの病気を子どもに伝える絵本》シリーズは、絵のまわりに白い枠があります。絵本にする段階で、重たいテーマを少し距離を置いて見られるようにと、デザイナーさんから提案いただきました。最初に描いた第1巻の原画には余白がありません。結果、絵本の絵の白い枠は、後からつけ加える形に。第2巻からは、まわりに余白を残して原画を描きました。すると、やわらかい印象に！改めて見比べると違いを感じると思います。

《子どもの気持ちを知る絵本》シリーズは白い枠のない絵本です。また印象が変わりますか？

いろいろな表現

《子どもの気持ちを知る絵本》シリーズから、絵の先生とも相談しながら、表現方法を拓けています。第1巻では、思春期の微妙な気持ち、自分でもよくわからない気持ちを、象徴的なアイテムにのせてコラージュで。トビラはココロ、時計はミクの中に流れる時間です。第2・3巻では身近な素材でスタンプを作りました。第2巻では、リクの涙をスタンプで表現。色の重なりが、塗るのとは違う複雑な涙になりました。第3巻では、目に見えない感覚過敏の世界を。聴覚過敏の「音がつきささるかんじ」(P4-5)や嗅覚過敏の「匂いのもあもあ感」(P6-7)。そして表紙は感覚過敏柄です。ひとつひとつのアイコンが消しゴムハンコでできています。彫りました。



見返しの絵のひみつ

《子どもの気持ちを知る絵本》シリーズは、見返しにお楽しみの絵がついています。お楽しみというのは、描いていて楽しいので！物語の中では、しんどい思いをしながら、背伸びしてがんばっている主人公たちだけけど、子どもらしい元気な面もあります。思いっきり遊んでいる姿、実はこんなことが好き！そんな一面も知って欲しいなあ〜と描きました。

*探してみよう

答えはスタッフへ

- ・原画から ... ネコ足のバスタブ (チアキの密かなお気に入り) / 主人公と相棒のぐるぐるがつながっている絵 (いっしょにぐるぐる) / 左右逆さまの絵 (原画→絵本にするときに、左右をひっくり返した絵が一枚だけあります) / きょうだいを亡くしたマナのお話「さくとさようなら」の原画 (1枚展示してます)
- ・見返しの絵シリーズから ... お茶目に踊るミク。天使ミク。眼鏡で変装のリク。70年代風のズボン姿のリク。万華鏡を覗くタク。
- ・「未来へゴー」... ドットの中の表情

くりかえし登場するキャラクター

(左) ロボット (右) 三つ目の子
ボクはロボット、だから傷つかない。これ以上傷ついたら身がもたない...。
ウラハラな気持ち。いろんなことを表現しても受け止めてもらえるわけではないから、いろんなことや気持ちがあるけど、笑顔でのりきる...。
どちらも、「がんばる子どもの工夫」です。
実は、何十年もラクガキで描きつづけているキャラクターです。



子どもの表情の絵

2015年、学会のポスター制作で、初めて、画面一面に子どもの顔を大きく描くチャレンジをしました。目が大きくて豊かな表情をのせられる！—この体験をきっかけに、子どもの表情の絵を描くようになりました。この原画展でもたくさんの子どものいろんな表情が登場します。「どんな気持ちも大丈夫」

ほんと？

Q. デッサンが苦手ってほんとですか？

A. ほんとです。例えば中学校の図工の思い出。デッサンの時間がキライで「なんで今ピーマン描かかなあかんねん。ピーマン描きたい気分やないねん」と全く取り組めませんでした。

絵本は、シンプルなキャラクターで、同じポーズを繰り返し描き (これは結果的にそうになっているのですが...), 細かな表現は、表情と色へゆだねています。

Q. 視覚過敏が活かされてるってほんとですか？

A. ほんとみたいです (この仕事をするまで、ただの眩しがりだと思い、気づいていませんでした)。感覚過敏のタクのお話は、自分がちょっぴりモデルです。詳しくは P44 のお手紙に。

* * *

最後までお読みいただきありがとうございました。制作についての質問がありましたら「なんでもかいていいのーと」へ。答えはツイッターでつぶやきます。原画展にお越しいただきありがとうございました。

チアキ